

令和 6 年度の工事実施内容

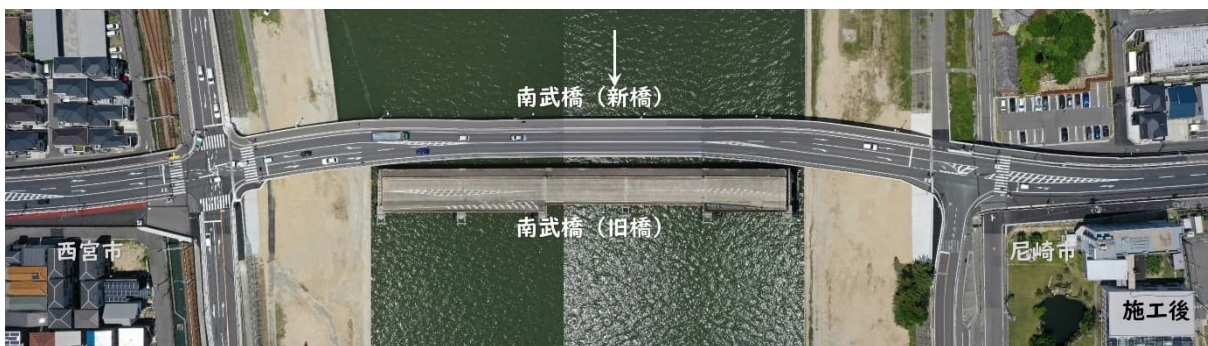
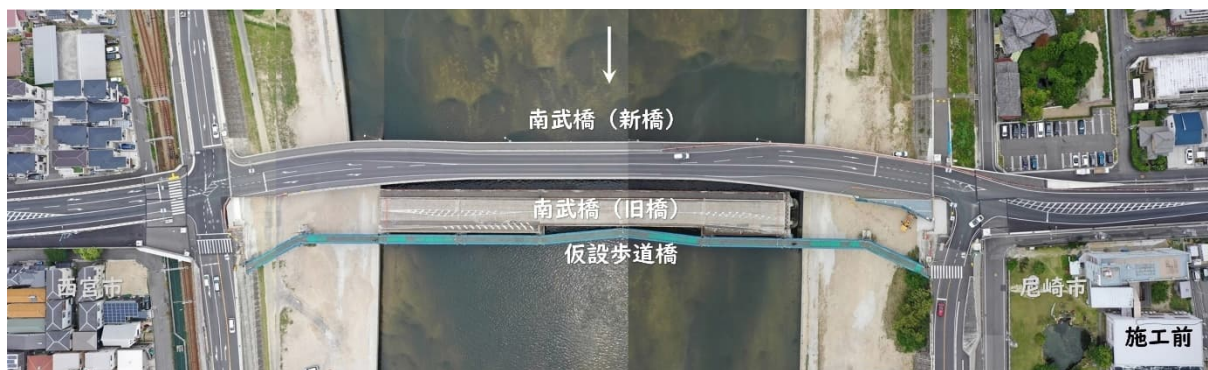
(1)河床掘削工事

- ・阪神高速湾岸線上流部において、国交省との連携により、台船上のバックホウを使って河床を掘削しています。
- ・掘削した砂礫は、大阪湾窪地対策に流用するため、土運船で大阪湾へ搬出します。



(2)南武橋関連工事

- ・武庫川の流水を流れやすくするため、南武橋を架け替えました。
- ・令和5年8月に車両交通を新橋に切り替えましたので、旧橋の撤去を行っています。





(3)床止工関連工事

- 川の流水によって、川底の土砂を侵食する量が多くなると護岸が壊れてしまう可能性が高くなります。
- 床止工は、川底の過剰な侵食を防いだり、河川の勾配を緩やかにして、流水の速度を安定させる機能を持っています。
- しかし、床止工は河川の流れを阻害してしまったり、魚類などの生息生物の移動の障害になるという側面も持っています。
- 河川整備工事では、水が流れる断面を大きくするために河床を掘り下げます。
- 川底が深くなることで、既設の床止工の基礎が浮いてしまいますので、2号床止工と3号床止工は、改築しています。
- 今回改築した床止工は、段差で生物の移動を妨げないように、全断面型の魚道(全体が緩やかなスロープ型になっており、どこからでも移動できる魚道)を採用しています。
- 1号床止工は帯工(川底と同じ高さ)を代わりに設置することで、川底の土砂を安定させることができるため撤去しました。

Q1 号床止工撤去および改築工事(尼崎市側)

- ・上段は施工中、下段は帯工完成後の写真です。
- ・完成した帯工は、流水によって見えません。



〇2 号床止工改築工事(西宮市側)

- ・令和 5 年度に西宮側が完成しましたので、令和 6 年度は尼崎市側を実施しました。
- ・上段写真は工事中の流水のない状態で尼崎市側から撮影しています。左側は施工前、右側は施工後の状況です。施工後は傾斜がなだらかになっています。
- ・三段目の写真は根固めブロックを並べ終えた完成直前の流水を止めている状態です。
- ・普段は水が流れていて見えませんが、川底はコンクリートで表面を固めてあったり、ブロックを並べたりして、洪水の時に掘れないようになっています。
- ・現在残っている既設床止工の一部は、上流側の根固め工を設置した後(令和 8 年度以降)に撤去します。





○3号床止工改築工事(西宮市側)

- ・令和5年度に尼崎市側が完成しましたので、令和6年度は西宮市側を実施しました。
- ・上段は施工中、下段は施工後の写真です。





(4)低水護岸工事(西宮市稲葉荘)

- ・河床掘削によって、既設護岸の基礎が露出してしまうため、低水護岸の基礎を深く入れ直しています。
- ・上段は着手前、中段は施工中、下段は完成後の写真です。



